
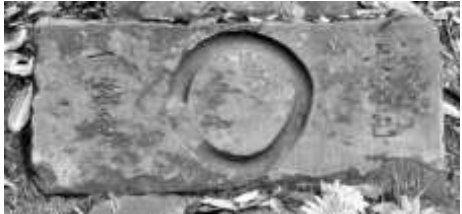



シート番号	7106-01	名称	雪中庵蓼太句碑
分類	記念碑	場所	人見 金毘羅神社
小分類	句碑・歌碑	メッシュ番号	1815
年号	年紀不明		
形状	厚板型		
サイズ	144×67×12 c m		
画像番号	7106-01-01 (表)	画像番号	7106-01-02 (台石)
 <p style="text-align: center;">「能神乃光 分天や稻の露」 雪中庵 蓼太</p>	 <p style="text-align: center;">大堀 一燈 邑 建</p>		
	画像番号	7106-01-03 (裏)	
	 <p style="text-align: center;">石乎 乎名乎 徳乎句 不朽者</p>		
<p>コメント；雪中庵蓼太（雪中庵三世）本名は大島蓼太。享保3年（1718）～天明7年（1787）。信濃国伊那郡大島の人。23歳のとき服部嵐雪門（雪中庵2世）に入門。延享4年（1747）、30歳で雪中庵を継承し3世となる。芭蕉10哲のひとり服部嵐雪（初代雪中庵）の流れをくむ俳人。富津市青木の俳人織本花嬌の師匠である。この他に大島蓼太の代表的な句として「世の中は 三日見ぬ間に 桜かな」。釜神公会堂には、49回忌を追悼したと思われる句碑があります。</p>			